徳島新聞　2011年(平成23年)2月10日　木曜日

ザンビアの自立を支援

頑張るNPO ㊷

TICO（ティコ）（吉野川市）

飢えや病気に苦しむアフリカ南部のザンビアを中心に、国際協力を行う。住民が自立して持続可能な生活を送れるよう支援するのが目的で、保健医療や農村開発などさまざまな分野で支援プロジェクトを進めている。

医師で代表理事の吉田修さん(52)＝吉野川市山川町前川＝が、1993年に県内の医師や看護師らとつくった「徳島で国際協力を考える会」が活動の原点。内戦や災害で混乱する途上国で緊急医療支援を行うメンバーを支えたり、帰国後に情報交換したりしていた。

転機が訪れたのは97年。国際協力機構（JICA）の専門家としてザンビアを訪れた吉田さんは「医療支援だけでは根本的な解決にならない。背景の貧困問題を何とかしないと」と考えるようになった。帰国後、医療に特化した支援ではなく、独自に多角的な支援を進めることになる。

計画は、首都ルサカの貧困地区で実施。子どもの栄養改善に向け、母親への料理教室を開き、収入が得られるよう洋裁教室も始めた。保育園や学校も開設した。当初は手取り足取りの支援だったが、今では拠点となるコミュニティーセンターを住民が運営している。

サハラ砂漠以南で1200万人が飢えに苦しんだ2002年の大干ばつを教訓に、干ばつに強い村づくりにも取り組んでいる。水や農業、健康、教育の環境を一体的に支援する計画を立て、井戸の修理や診療所の開設などを進めている。

プロジェクトは、日本から3人程度派遣するコーディネーターと現地スタッフが一緒になって実施。資金はJICAなどの補助金を中心に寄付や会費などで賄っている。

日本国内でもさまざまな事業を展開。その代表が、1997年から毎月開催している公開セミナー「地球人カレッジ」だ。国際協力をはじめ、地球環境や人権などをテーマに参加者と一緒に学んでいる。

吉田さんは「資源をどんどん消費する先進国の生活が、地球温暖化を招くなどして途上国に悪影響を与えている。循環型の生活を実践することが国際協力にもつながる」と強調した。

（秋月悠）

＝随時掲載

栄養改善のためにTICOが開いている料理教室＝2009年7月、ザンビア

《メモ》

▼認証　2004年9月▼会員　約220人▼代表　吉田修代表理事▼事務所　吉野川市山川町前川120の4▼問い合わせ　事務局〈電0883（42）2271〉。